

ANAホールディングス株式会社 説明会

2023年3月期決算

2023年4月27日

代表取締役社長
芝田 浩二



目 次

1. 2022年度 決算・2023年度 業績予想

2022年度 決算概要	P. 4
2022年度の振り返り	P. 5
2023年度の旅客需要前提	P. 6
2023年度 通期業績予想	P. 7
2023年度の戦略テーマ	P. 8
旅客事業	P. 9
貨物事業	P. 10
人財・環境への対応	P. 11
価値創造目標	P. 12

2. 2022年度 決算（詳細）

業績ハイライト	P. 14
連結決算概要	
経営成績	P. 15
財政状態	P. 16
キャッシュフロー	P. 17-18
セグメント別実績	P. 19

航空事業

収入・費用	P. 20
営業利益 増減要因	P. 21
売上高の推移	P. 22
ANA国際旅客	P. 23
ANA国内旅客	P. 24
ANA国際貨物	P. 25-26
ANA国内貨物	P. 27
LCC	P. 28
事業別の動向	P. 29-30
ANA国際線・方面別実績（構成比）	P. 31
燃油・為替ヘッジの進捗状況	P. 32
航空機数	P. 33
ノンエア事業	
航空事業以外のセグメント	P. 34

3. 2023年度 業績予想（詳細）

連結業績予想	P. 36
セグメント別 計画	P. 37
航空事業	
売上高・営業費用 計画	P. 38
営業利益 増減要因	P. 39
計画前提（ANA旅客・貨物、LCC）	P. 40-42

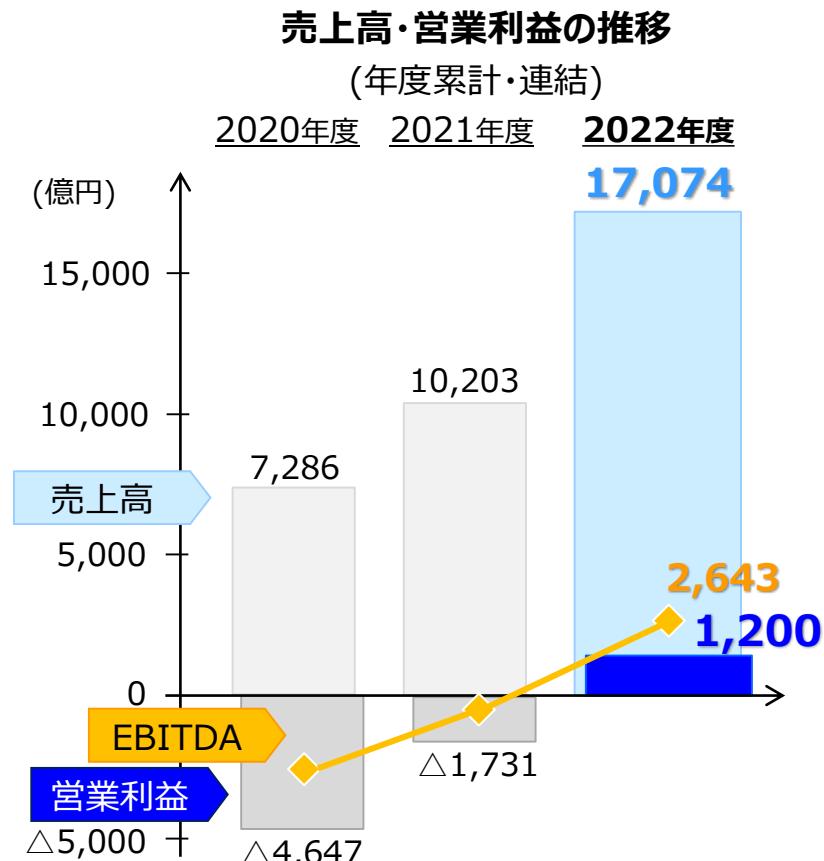
1. 2022年度 決算 ・ 2023年度 業績予想



2022年度 決算概要

2022年度 決算(連結)

(億円)	実績	前年差	前年比
売上高	17,074	+6,871	+67.3%
航空事業	15,394	+6,543	+73.9%
営業費用	15,874	+3,940	+33.0%
航空事業	14,152	+3,672	+35.0%
営業利益	1,200	+2,931	-
航空事業	1,241	+2,870	-
経常利益	1,118	+2,967	-
親会社株主に帰属する当期純利益	894	+2,331	-
EBITDA	2,643	+2,901	-
1株あたり当期純利益	190.2円	+495.6円	-



1. 売上高 : 航空事業の需要回復に伴い、前年比で大幅に増加
2. 営業費用 : 生産量を伸ばした中でも、固定費の増加を抑制
3. 営業利益 : 3期ぶりに通期黒字化、期初に計画した利益目標を大幅に超過

2022年度の振り返り



事業別の対応

売上高 前年比
(2019年比*¹)

国際旅客

水際緩和に合わせて、生産量を段階的に増加
イールドコントロールを徹底しながら、回復する需要を取り込み

6.2倍
(△34%)

国内旅客

大型機(ボーイング777型機)の運航を再開、旅客数の取り込みを強化

1.9倍
(△27%)

国際貨物

11機のフレイターをフル稼働、高単価貨物を獲得

△6%
(3.0倍)

LCC

急速に回復するレジャー・VFR*²需要を獲得、国際線を一部再開

2.4倍
(+2%)

収益性を重視しながら生産量を回復し、トップラインを拡大

*¹ 2019年1月～12月実績を、新収益認識基準に置き換えた場合の数値と比較*² Visiting Friends & Relatives

2023年度の旅客需要前提

2022年度 実績

国内旅客

[上期] ビジネス需要が先行して回復
 [下期] レジャーが伸張(全国旅行支援など)

国際旅客

[上期] 三国間需要が先行して回復
 [下期] 水際緩和で海外発が増加

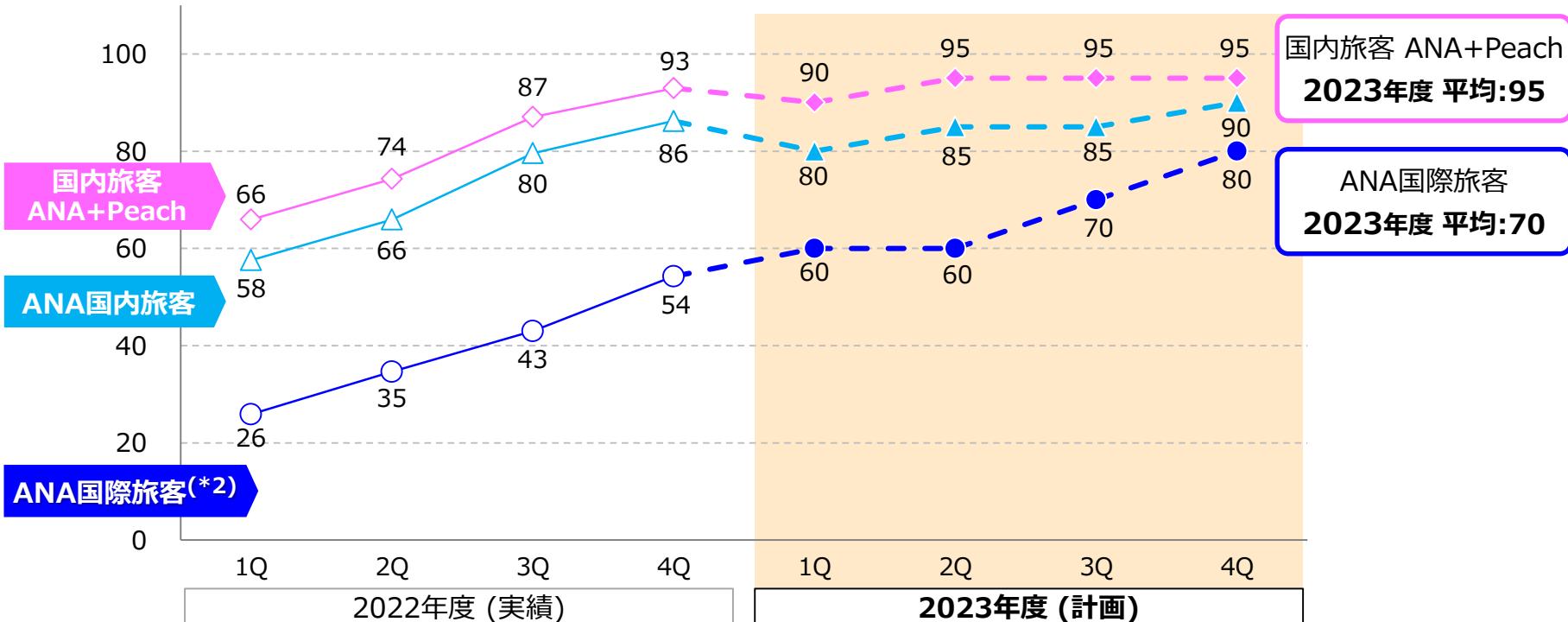
2023年度 計画前提

レジャー・訪日客を中心に需要が増加
 ビジネス需要は緩やかに回復

訪日需要の増加基調が継続
 日本発レジャー需要は徐々に回復

四半期毎の需要水準

[指数]コロナ前(2019年1~12月)の旅客数^(*1) = 100



*1 収益認識に関する会計基準に基づいて変更した実績 (特典航空券の利用旅客を含む)

*2 Peach、AirJapanを含まない

2023年度 通期業績予想

2023年度 通期業績予想（連結）

(億円)	通期	前年差
売上高	19,700	+2,625
航空事業	17,640	+2,245
営業利益	1,400	+199
航空事業	1,340	+98
営業利益率	7.1%	+0.1pt
経常利益	1,150	+31
親会社株主に帰属する当期純利益	800	△94
EBITDA	2,830	+186
1株あたり当期純利益	170.1円	△20.1円
1株あたり配当金	未定	-

2023年度計画のポイント（前年差）

1) 売上高 → 旅客事業の回復が継続し大幅増加

- ①国際旅客 +1,835億円
- ②国内旅客 +1,004億円
- ③国際貨物 △900億円

2) 営業費用→生産量運動に加え、物価高騰等*で増加

- ①物価高騰
- ②人的資本への投資
- ③各種減免・補助金の減少

*合計600億円

トップラインを大幅に拡大し、実質的な利益を着実に向上

2023年度の戦略テーマ

2023年度

～2025年度

中計期間の
経営テーマ

- 財務基盤を着実に改善、成長回帰への足元固め
- 2030年にありたい姿「経営ビジョン」の実現に向けた変革

主な戦略テーマ

航空事業

- 1) 3ブランドを活用したエアラインポートフォリオの最適化
- 2) 貨物事業の安定収益確保に向けた事業モデルの構築
- 3) 物価高騰に伴う費用増加への対応

ノンエア

- 4) コンテンツ拡充によるプラットフォーム収益の拡大

人財

- 5) グループ従業員の賃金復元、人的生産性の向上

環境

- 6) CO₂排出量削減に向けた対応の加速


生産量を拡大するための
リソース確保
収益性向上を実現するための
ビジネスモデル変革
持続的に成長するための
先行投資

経営基盤

安全

人的資本

DX

旅客事業

事業領域・主なターゲット	2023年度のポイント
国際線(短～長距離) 国内線 ビジネス、レジャー	1) [国際線] 需要動向に応じて機動的にネットワークを回復 2) [国際線] 中国線、日本発レジャーの需要増加を取り込み 3) [国際線・国内線] イールドマネジメントの徹底を継続
国際線(中距離) 訪日(東南アジア)	1) 新たなブランドとして、2024年2月に就航予定 (2023年夏頃を目途に、就航路線を発表・販売開始) 2) FSCとLCCのナレッジを融合したビジネスモデルを追求
国際線(短距離) 国内線 レジャー・VFR	1) [国際線] 本格的に運航を再開し、機材稼働を最大化 2) [国内線] 収益性を重視してネットワークを再編

3ブランドを活用した最適な航空事業ポートフォリオを構築

貨物事業

テーマ

2023年度のポイント



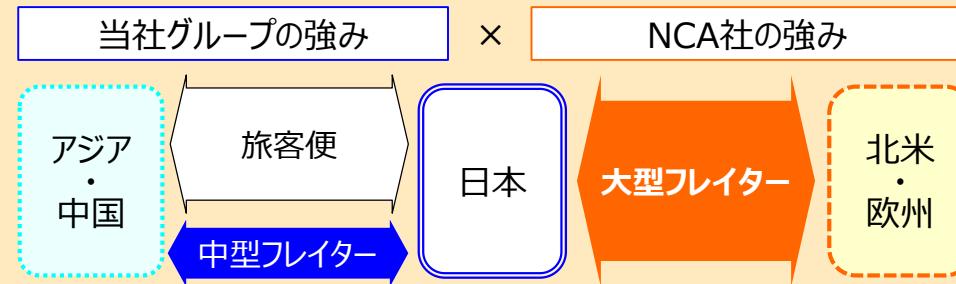
需給環境の変化に対応し
安定的に利益を創出

- 1) 顧客ニーズに応じて月次単位でフレイター運航便を設定
- 2) 高単価商材、特定商材の獲得を強化
- 3) 柔軟なオペレーション体制を構築、高品質な輸送を提供

日本貨物航空(株) (=NCA) の株式取得に向けた基本合意（2023年3月7日適時開示）

日本郵船(株)との間で、NCA社の全株式を当社が取得することに関する基本合意書を締結

- 1) 目的 : ポストコロナにおける貨物事業の収益最大化
- 2) 戦略上の狙い : ネットワークの強みを補完し合うことで、国際貨物事業における供給バランスを最適化



コンビネーションキャリアの強みを發揮し、貨物事業の競争力を一層強化

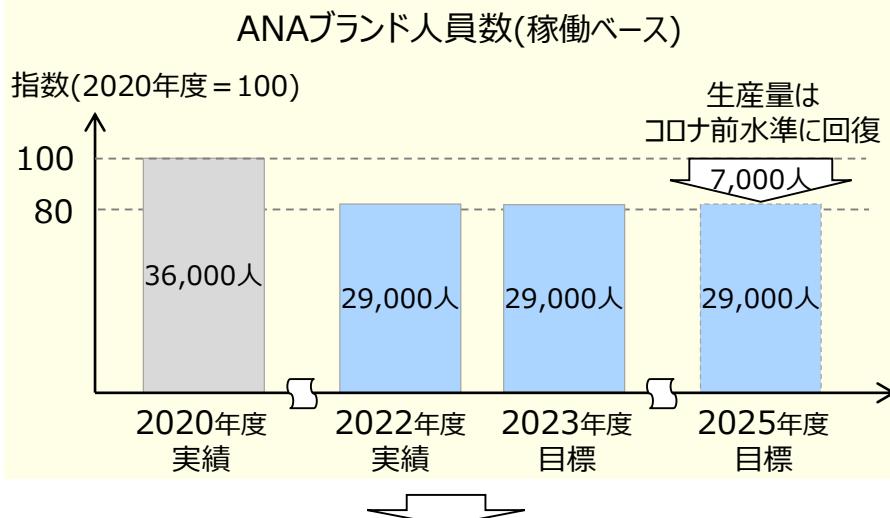
人財・環境への対応

1. 人財

2022年度の人員数は、2020年度比▲7,000人

2025年度に約2割の生産性向上*の実現に向けて、
今後は人員数の増加を抑制しながら生産量を回復

*ANAブランドの稼働人員数ベース



2023年度の対応

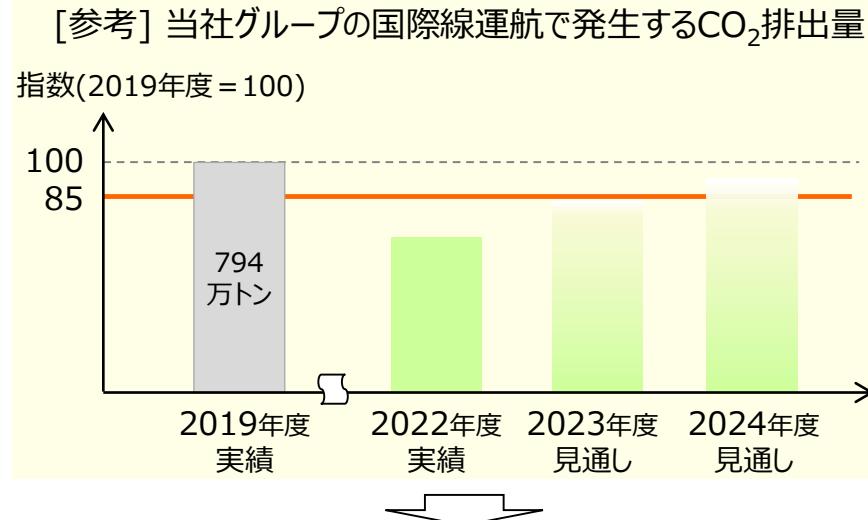
- 1) DXによるサービスの「セルフ化」「事前化」を促進
[空港] オンラインチェックイン、搭乗案内、イレギュラー対応
[機内] 機内食・免税品のプリオーダー、など

2. 環境

2022年10月のICAO総会で**CORSIA***ベースラインが変更
「2024年以降のCO₂排出量を2019年比85%以下に抑制」

2024年以降、各社でCO₂オフセット義務が発生する可能性

*CORSIA = 国際航空のためのカーボンオフセット及び削減スキーム

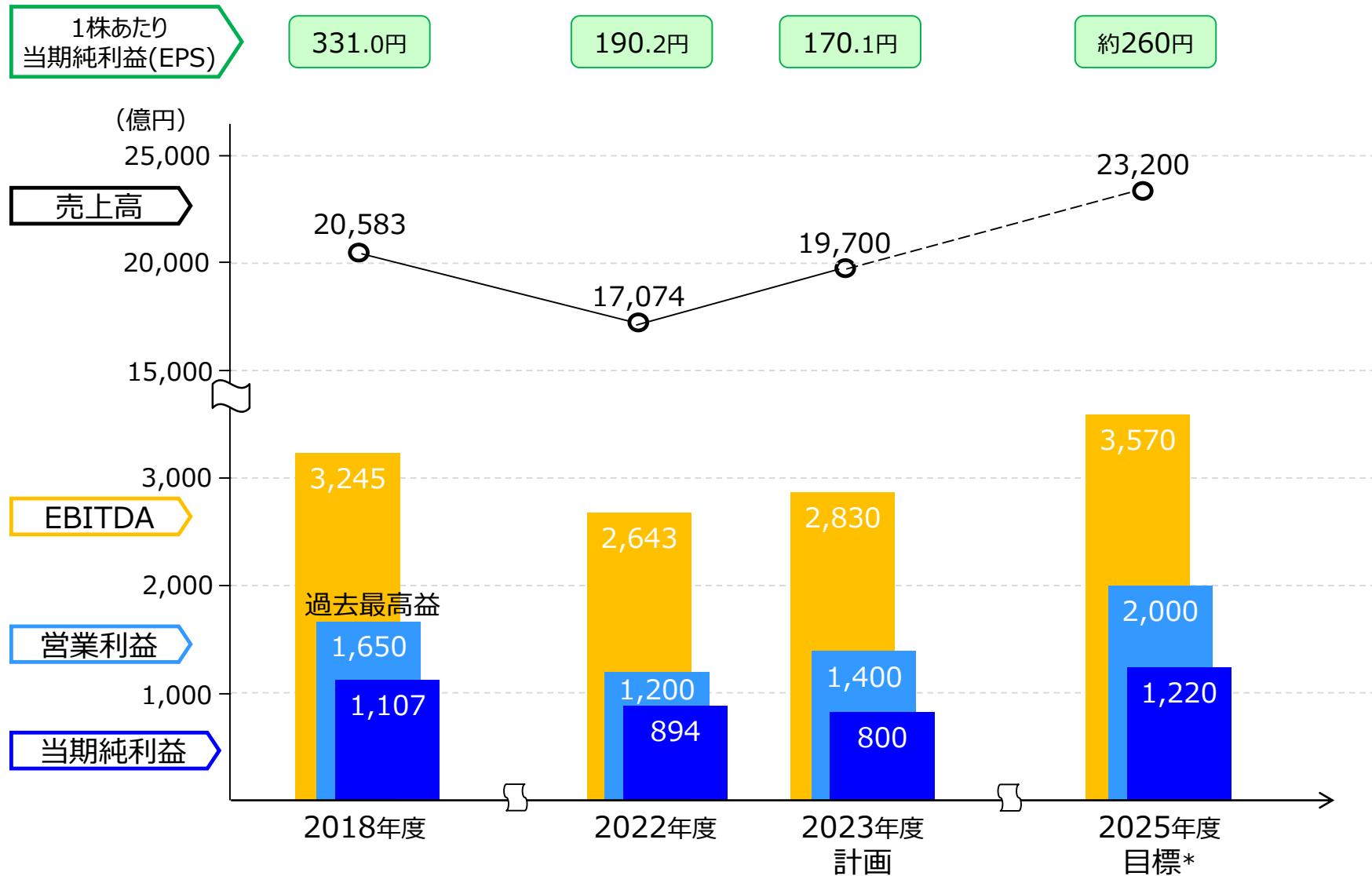


2023年度の対応

- 1) ベースライン変更に対応してトランジションシナリオを更新
- 2) SAF調達やDAC活用に向けた取り組みを加速

*DAC(Direct Air Capture) = 大気中のCO₂を直接回収する技術

価値創造目標



2. 2022年度 決算（詳細）



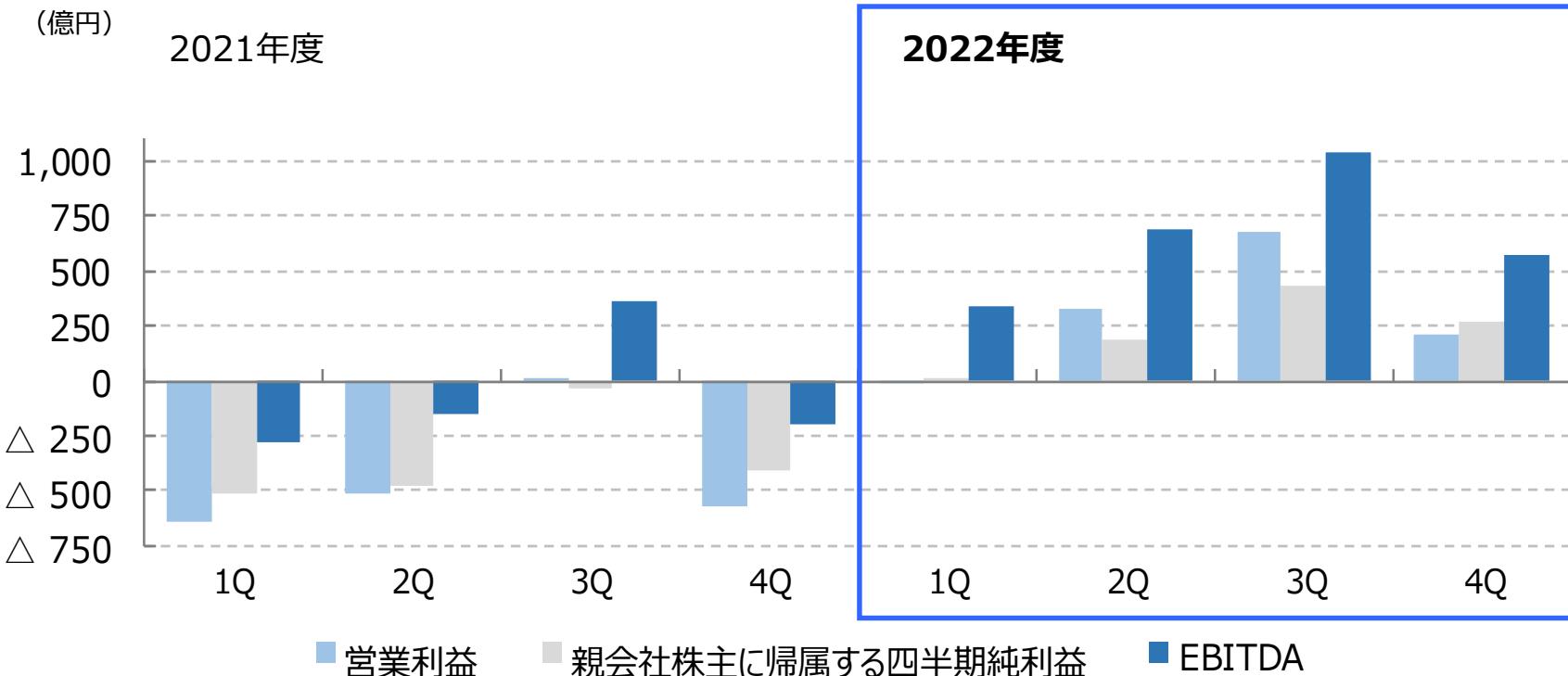
当年度と前年度各四半期の業績比較

【2022年度（連結）】

- 営業利益 : 1,200億円（前年同期比 + 2,931億円）
- 親会社株主に帰属する当期純利益 : 894億円（同 + 2,331億円）
- EBITDA : 2,643億円（同 + 2,901億円）

【第4四半期（1-3月期）（連結）】

- 営業利益 : 210億円
- 親会社株主に帰属する四半期純利益 : 268億円
- EBITDA : 578億円



経営成績

(億円)	FY2021	FY2022	前年差	FY2022 第4四半期	前年差
売上高	10,203	17,074	+ 6,871	4,488	+ 1,665
営業費用	11,934	15,874	+ 3,940	4,277	+ 881
営業利益	△ 1,731	1,200	+ 2,931	210	+ 783
営業利益率 (%)	-	7.0	-	4.7	-
営業外損益	△ 118	△ 82	+ 35	△ 15	+ 76
経常利益	△ 1,849	1,118	+ 2,967	194	+ 860
特別損益	95	25	△ 70	25	△ 133
親会社株主に帰属する当期純利益	△ 1,436	894	+ 2,331	268	+ 677
当期純利益	△ 1,422	900	+ 2,323	264	+ 669
その他包括利益	484	△ 268	△ 753	△ 73	△ 476
包括利益	△ 937	632	+ 1,570	191	+ 192

財政状態

(億円)	FY2021 期末	FY2022 期末	前年度 期末差
総資産	32,184	33,667	+ 1,482
自己資本	7,972	8,624	+ 651
自己資本比率 (%)	24.8	25.6	+ 0.8pt
有利子負債残高	17,501	16,079	△ 1,421
D/Eレシオ (倍)	2.2	1.9	△ 0.3
手元流動性資金 *1	9,509	11,837	+ 2,327
純有利子負債残高 *2	7,991	4,241	△ 3,749
ネットD/Eレシオ (倍) *3	1.0	0.5	△ 0.5

*1 手元流動性資金 = 現金及び預金 + 有価証券

*2 純有利子負債残高 = 有利子負債残高 - 手元流動性資金

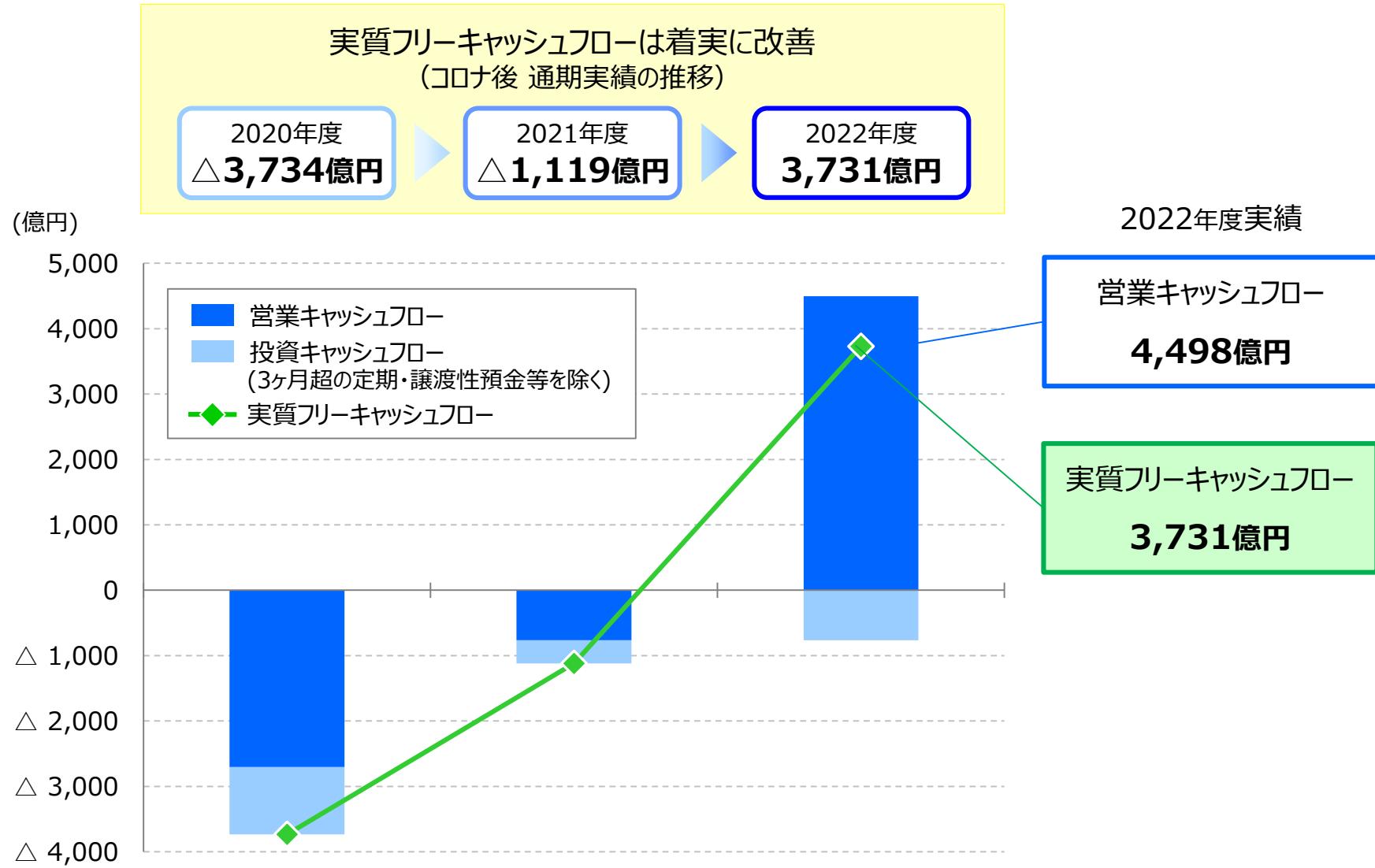
*3 ネットD/Eレシオ = 純有利子負債÷自己資本

キャッシュフロー

(億円)	FY2021	FY2022	前年差
営業キャッシュフロー	△ 764	4,498	+ 5,262
投資キャッシュフロー	2,300	△ 2,040	△ 4,340
財務キャッシュフロー	936	△ 1,429	△ 2,365
現金及び現金同等物の増減額	2,508	1,054	△ 1,454
現金及び現金同等物の期首残高	3,703	6,210	+ 1,054
現金及び現金同等物の期末残高	6,210	7,264	
減価償却費	1,575	1,482	△ 92
設備投資額（固定資産のみ）	1,333	1,168	△ 164
実質フリー・キャッシュフロー (3ヶ月超の定期・譲渡性預金等を除く)	△ 1,119	3,731	+ 4,850
EBITDA（営業利益+減価償却費*）	△ 257	2,643	+ 2,901
EBITDAマージン(%)	-	15.5	-

* 休止機材費に計上した減価償却費を含まない

【参考】実質フリーキャッシュフローの推移



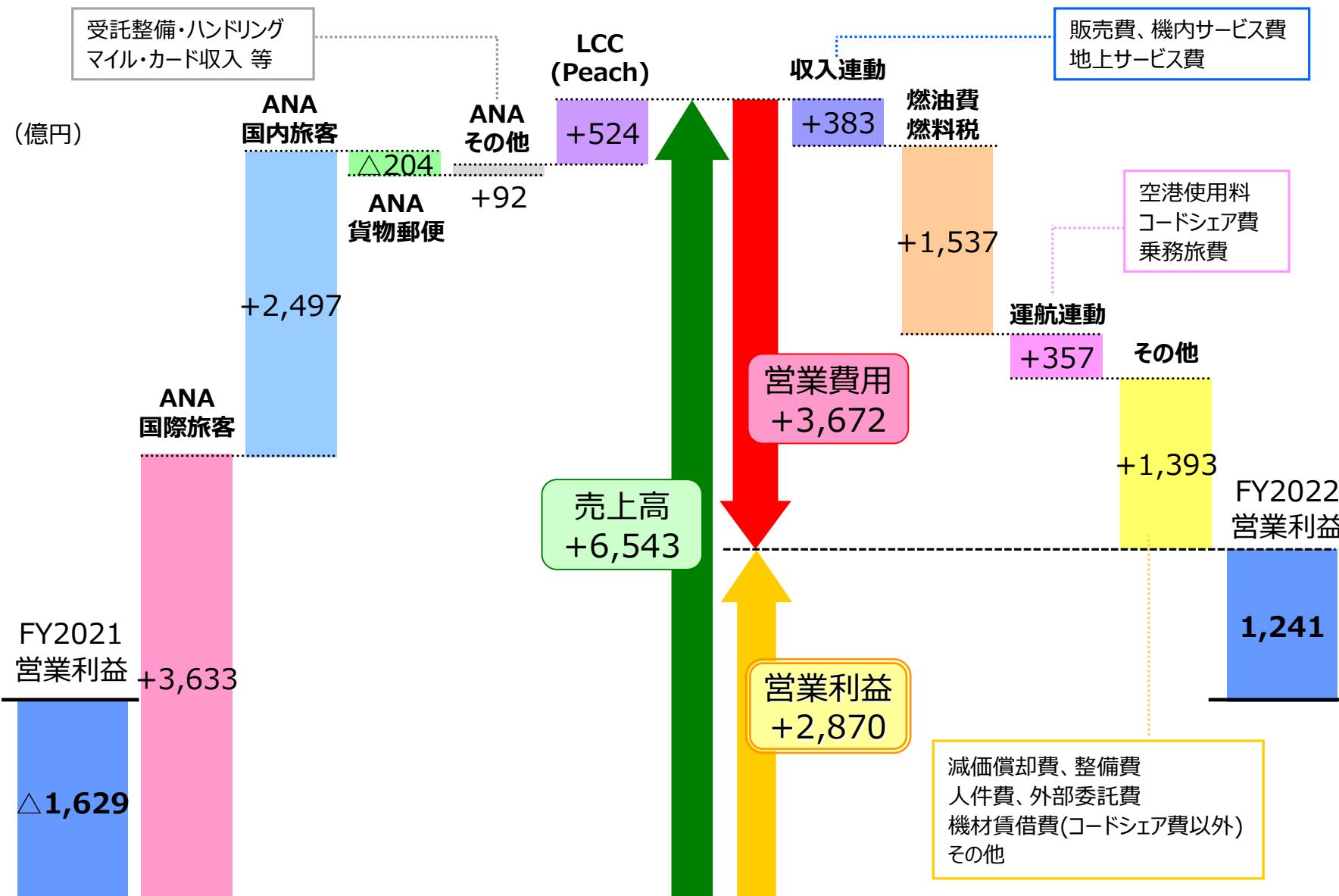
セグメント別実績

(億円)	FY2021	FY2022	前年差	FY2022 第4四半期	前年差
	8,850	15,394	+ 6,543	4,054	+ 1,587
売上高	航空事業	2,068	+ 403	668	+ 99
	航空関連事業	462	+ 275	207	+ 90
	旅行事業	816	+ 215	266	+ 64
	商社事業	381	△ 0	108	+ 3
	その他	△ 2,376	△ 2,942	△ 565	△ 816
	調整額	10,203	17,074	+ 6,871	+ 1,665
	合計 (連結)	△ 1,629	1,241	+ 2,870	+ 750
営業利益	航空事業	△ 6	23	+ 29	△ 28
	航空関連事業	△ 21	△ 2	+ 18	+ 21
	旅行事業	5	35	+ 29	5
	商社事業	13	5	△ 7	+ 6
	その他	△ 93	△ 102	△ 9	△ 22
	調整額	△ 1,731	1,200	+ 2,931	+ 0
	合計 (連結)	△ 1,731	1,200	+ 2,931	+ 783

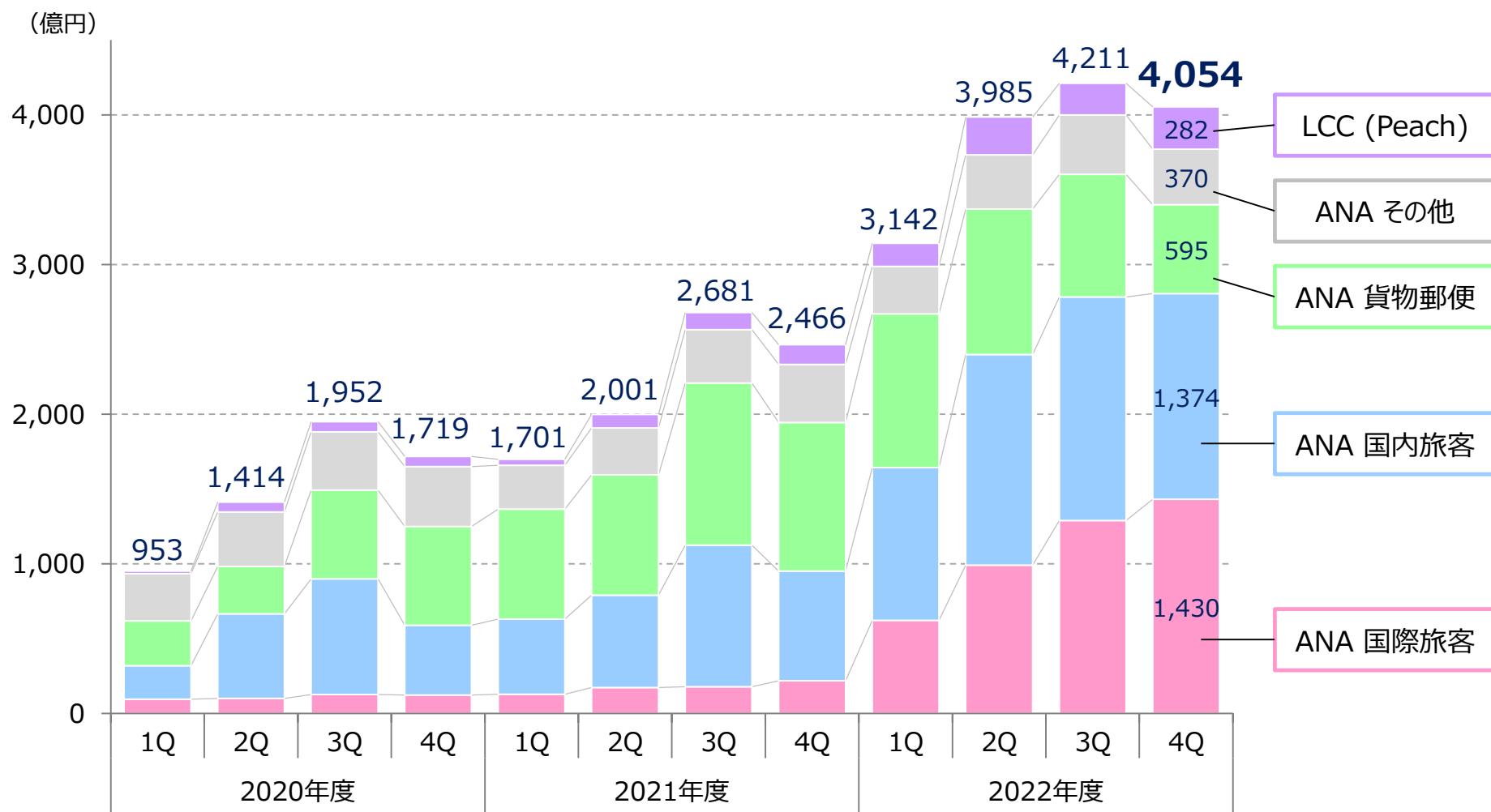
収入・費用

(億円)	FY2021	FY2022	前年差	FY2022	前年差
				第4四半期	
売上高	国際旅客	701	4,334	+ 3,633	1,430 + 1,211
	国内旅客	2,798	5,295	+ 2,497	1,374 + 640
	貨物郵便	3,617	3,413	△ 204	595 △ 397
	その他	1,354	1,447	+ 92	370 △ 17
LCC		378	902	+ 524	282 + 149
	合計	8,850	15,394	+ 6,543	4,054 + 1,587
営業費用	燃油費・燃料税	1,939	3,477	+ 1,537	881 + 289
	空港使用料	429	605	+ 175	176 + 57
	航空機材賃借費	1,130	1,333	+ 203	346 + 65
	減価償却費	1,405	1,384	△ 21	352 △ 1
	整備部品・外注費	961	1,380	+ 418	421 + 56
	人件費	1,585	1,934	+ 349	531 + 93
	販売費	276	476	+ 200	120 + 43
	外部委託費	1,688	2,070	+ 381	546 + 112
	その他	1,063	1,490	+ 427	426 + 119
営業利益	合計	10,480	14,152	+ 3,672	3,803 + 837
	営業利益	△ 1,629	1,241	+ 2,870	250 + 750
EBITDA (営業利益+減価償却費)		△ 223	2,626	+ 2,849	603 + 749
EBITDAマージン (%)		-	17.1	-	14.9 -

営業利益 増減要因



【参考】売上高の推移



ANA国際旅客

	FY2021	FY2022	前年比(%) (CY19比)*2	FY2022 第4四半期	前年比(%) (CY19比)*2
座席キロ (百万)	20,524	35,875	+ 74.8 (△48.1)	11,071	+ 99.1 (△32.2)
旅客キロ (百万)	5,550	26,408	+ 375.8 (△52.5)	8,414	+ 366.4 (△35.5)
旅客数 (千人)	825	4,212	+ 410.3 (△60.7)	1,395	+ 405.1 (△45.7)
座席利用率 (%)	27.0	73.6	+46.6pt*1 (△6.8pt)	76.0	+43.6pt*1 (△3.8pt)
旅客収入 (億円)	701	4,334	+ 517.9 (△34.1)	1,430	+ 553.1 (△6.7)
ユニットレベニュー (円) (旅客収入/座席キロ)	3.4	12.1	+ 253.5 (+26.9)	12.9	+ 228.1 (+37.7)
イールド (円) (旅客収入/旅客キロ)	12.6	16.4	+ 29.9 (+38.7)	17.0	+ 40.0 (+44.7)
単価 (円) (旅客収入/旅客数)	84,978	102,899	+ 21.1 (+67.8)	102,568	+ 29.3 (+72.0)

*1 座席利用率のみ前年差及びCY19差

*2 2019年1~12月期実績を、新収益認識基準に置き換えた場合の数値と比較

ANA国内旅客

	FY2021	FY2022	前年比(%) (CY19比)*2	FY2022 第4四半期	前年比(%) (CY19比)*2
座席キロ (百万)	34,288	49,901	+ 45.5 (△15.9)	12,764	+ 30.9 (△11.3)
旅客キロ (百万)	16,382	32,201	+ 96.6 (△26.8)	9,057	+ 111.1 (△12.2)
旅客数 (千人)	17,959	34,534	+ 92.3 (△27.8)	9,664	+ 103.0 (△13.8)
座席利用率 (%)	47.8	64.5	+16.8pt*1 (△9.7pt)	71.0	+26.9pt*1 (△0.8pt)
旅客収入 (億円)	2,798	5,295	+ 89.2 (△26.9)	1,374	+ 87.4 (△16.3)
ユニットレベニュー (円) (旅客収入/座席キロ)	8.2	10.6	+ 30.0 (△13.1)	10.8	+ 43.1 (△5.6)
イールド (円) (旅客収入/旅客キロ)	17.1	16.4	△ 3.7 (△0.1)	15.2	△ 11.2 (△4.6)
単価 (円) (旅客収入/旅客数)	15,584	15,335	△ 1.6 (+1.2)	14,221	△ 7.7 (△2.9)

*1 座席利用率のみ前年差及びCY19差

*2 2019年1~12月期実績を、新収益認識基準に置き換えた場合の数値と比較

ANA国際貨物（ベリー+フレイター）

	FY2021	FY2022	前年比(%)	FY2022 第4四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	6,966	6,605	△ 5.2	1,624	△ 6.3
有償貨物トンキロ（百万）	5,186	4,147	△ 20.0	941	△ 25.0
貨物輸送重量（千トン）	976	805	△ 17.5	183	△ 21.3
貨物重量利用率（%）	74.4	62.8	△ 11.7pt*	58.0	△ 14.5pt*
貨物収入（億円）	3,287	3,080	△ 6.3	519	△ 42.9
ユニットレベニュー（円） (貨物収入／有効貨物トンキロ)	47.2	46.6	△ 1.2	32.0	△ 39.1
イールド（円） (貨物収入／有償貨物トンキロ)	63.4	74.3	+ 17.2	55.1	△ 23.9
重量単価（円/kg） (貨物収入／貨物輸送重量)	337	382	+ 13.6	283	△ 27.4

* 貨物重量利用率のみ前年差

ANA国際貨物（フレイターのみ）

本表のデータは、P.25記載実績の内数

	FY2021	FY2022	前年比(%)	FY2022 第4四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	2,390	2,370	△ 0.8	564	△ 7.5
有償貨物トンキロ（百万）	1,664	1,520	△ 8.7	358	△ 11.8
貨物輸送重量（千トン）	417	378	△ 9.3	87	△ 12.8
貨物重量利用率（%）	69.6	64.1	△ 5.5pt*	63.6	△ 3.1pt*
貨物収入（億円）	1,208	1,322	+ 9.5	232	△ 30.8
ユニットレベニュー（円） (貨物収入／有効貨物トンキロ)	50.5	55.8	+ 10.4	41.3	△ 25.2
イールド（円） (貨物収入／有償貨物トンキロ)	72.6	87.0	+ 19.9	64.9	△ 21.5
重量単価（円/kg） (貨物収入／貨物輸送重量)	290	349	+ 20.7	267	△ 20.6

* 貨物重量利用率のみ前年差

ANA国内貨物

	FY2021	FY2022	前年比(%)	FY2022 第4四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	957	1,413	+ 47.6	369	+ 44.1
有償貨物トンキロ（百万）	281	281	△ 0.2	64	△ 4.9
貨物輸送重量（千トン）	251	253	+ 0.9	59	△ 3.9
貨物重量利用率（%）	29.4	19.9	△ 9.5pt*	17.6	△ 9.1pt*
貨物収入（億円）	249	241	△ 3.3	54	△ 10.4
ユニットレベニュー（円） (貨物収入／有効貨物トンキロ)	26.0	17.1	△ 34.5	14.9	△ 37.8
イールド（円） (貨物収入／有償貨物トンキロ)	88.4	85.7	△ 3.1	84.8	△ 5.8
重量単価（円/kg） (貨物収入／貨物輸送重量)	99	95	△ 4.1	93	△ 6.7

* 貨物重量利用率のみ前年差

LCC (Peach Aviation)

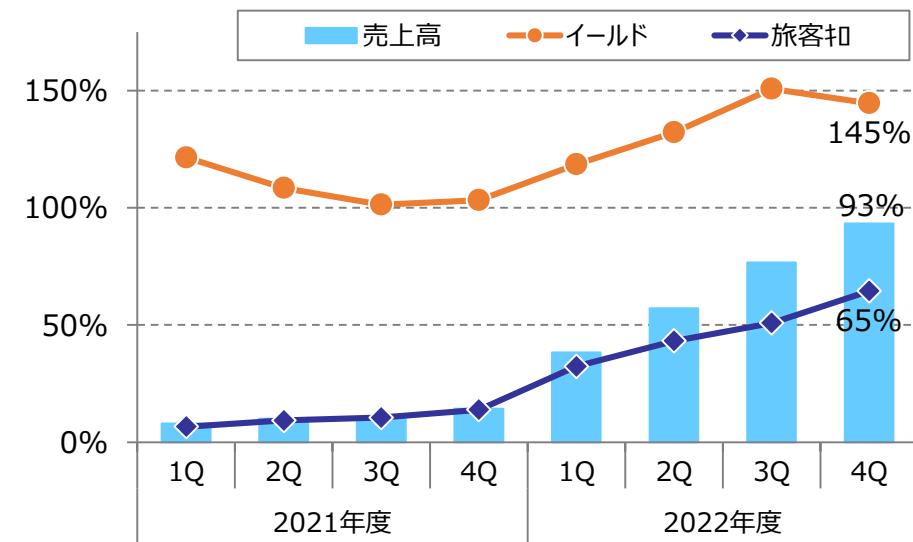
	FY2021	FY2022	前年比(%)	FY2022 第4四半期	前年比(%)
座席キロ (百万)	7,863	12,232	+ 55.6	3,181	+ 37.9
旅客キロ (百万)	4,846	8,991	+ 85.5	2,576	+ 70.6
旅客数 (千人)	4,267	7,775	+ 82.2	2,161	+ 60.7
座席利用率 (%)	61.6	73.5	+11.9pt*1	81.0	+15.5pt*1
売上高 (億円) *2	378	902	+ 138.7	282	+ 113.1
ユニットレベニュー (円) (売上高/座席キロ)	4.8	7.4	+ 53.5	8.9	+ 54.5
イールド (円) (売上高/旅客キロ)	7.8	10.0	+ 28.7	11.0	+ 24.9
単価 (円) (売上高/旅客数)	8,862	11,610	+ 31.0	13,076	+ 32.6

*1 座席利用率のみ前年差

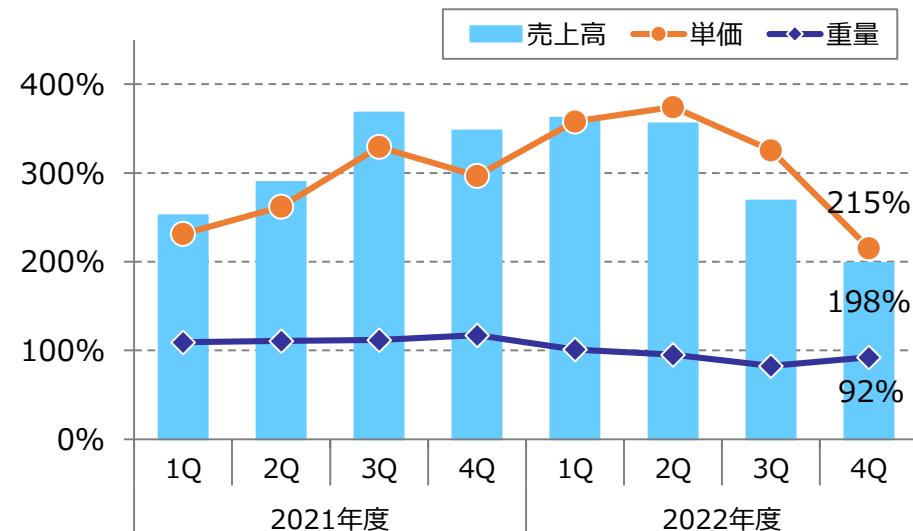
*2 売上高に付帯収入を含む

事業別の概況 (ANA国際旅客・ANA国際貨物)

1. ANA国際旅客



2. ANA国際貨物



第4四半期(1~3月)の概況

コロナ前同四半期比

旅客キロ 65%

1) 訪日需要が大幅に増加
日本発ビジネスも堅調に推移

イールド 145%

2) 高いイールド水準を維持

売上高 93%

コロナ前同四半期比

貨物重量 92%

1) 三国間貨物の取り込み強化

単価 215%

2) フレイターを最大限活用
高単価貨物を獲得

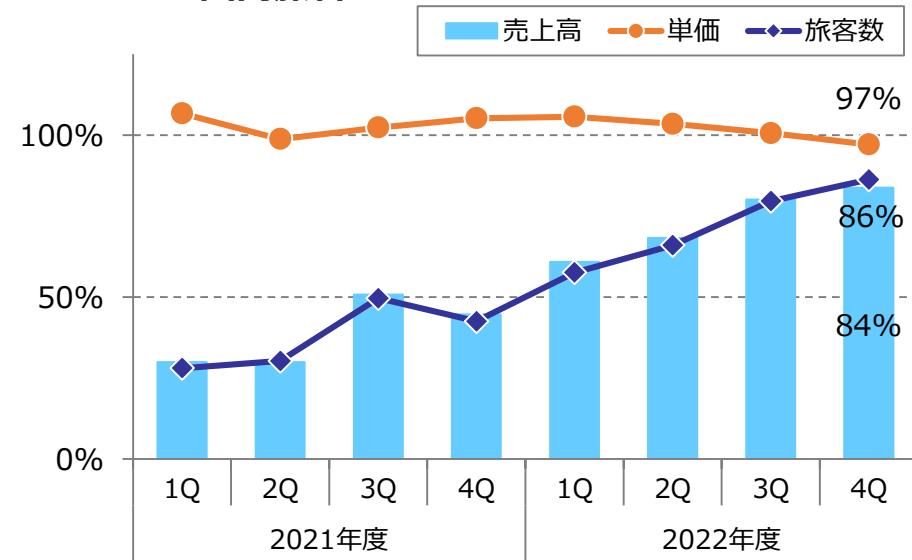
売上高 198%

* グラフはコロナ前実績 (2019年1~12月実績)=100%

* 2019年度実績は、新収益認識基準に置き換えて算定

事業別の概況 (ANA国内旅客・Peach)

3. ANA国内旅客



第4四半期(1~3月)の概況

コロナ前同四半期比

1) 需要喚起でレジャー需要を獲得

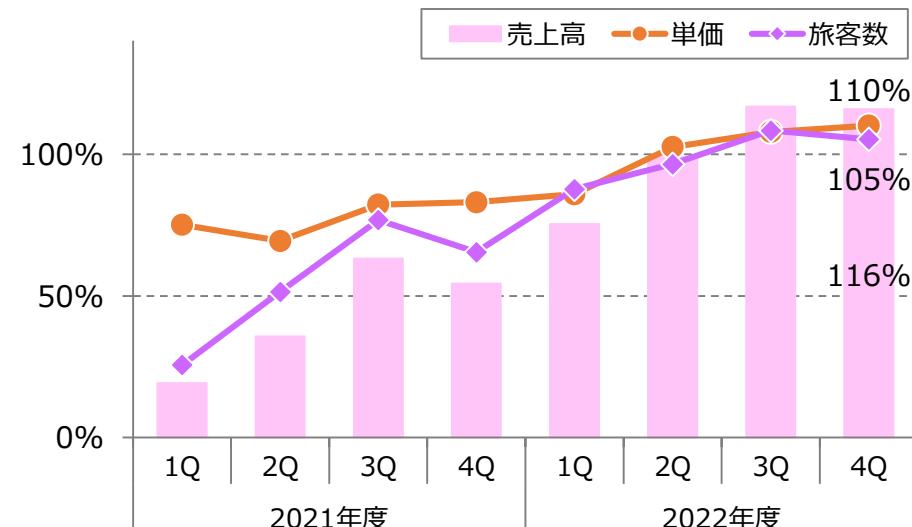
旅客数 86%

2) メリハリのあるイールドマネジメント

単価 97%

売上高 84%

4. Peach (国内線・国際線合計)



コロナ前同四半期比

1) 国内線のレジャー・VFR需要、回復する訪日需要を取り込み

旅客数 105%

2) 値上げ・販促強化

単価 110%

売上高 116%

* グラフはコロナ前実績 (2019年1~12月実績)=100%

* 2019年度実績は、新収益認識基準に置き換えて算定

ANA国際線 方面別実績（構成比）

	CY2019 構成比*	FY2022 構成比	コロナ前実績 との差異	FY2022 第4四半期 構成比	コロナ前実績 との差異
旅客収入	北米	29.6	+ 10.0	38.0	+ 8.6
	欧州	19.5	△ 4.8	13.6	△ 3.9
	中国	13.7	△ 9.0	5.4	△ 8.8
	アジア・オセアニア	30.9	+ 6.3	38.7	+ 5.0
	ハワイ	6.2	△ 2.6	4.2	△ 0.8

* 2019年1~12月期実績を、新収益認識基準に置き換えて算定

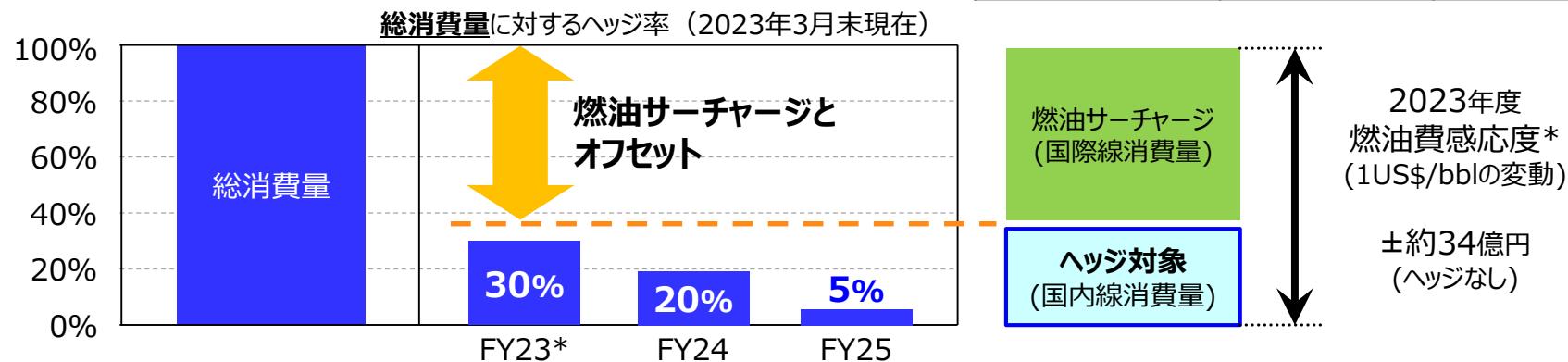
	CY2019 構成比	FY2022 構成比	コロナ前実績 との差異	FY2022 第4四半期 構成比	コロナ前実績 との差異
貨物収入	北米（ハワイを含む）	35.4	+ 12.1	43.8	+ 8.7
	欧州	15.6	△ 7.4	9.0	△ 7.6
	中国	21.9	△ 2.1	21.6	+ 0.9
	アジア・オセアニア	23.6	△ 0.0	24.4	+ 0.2
	その他	3.5	△ 2.6	1.2	△ 2.1

燃油・為替ヘッジの進捗状況 (ANA)

1. 燃油ヘッジ 基本方針

- 1) 国内線消費量を対象にヘッジ（3年前から取引開始）
- 2) 国際線消費量は原則としてヘッジ対象外（燃油サーチャージで対応）

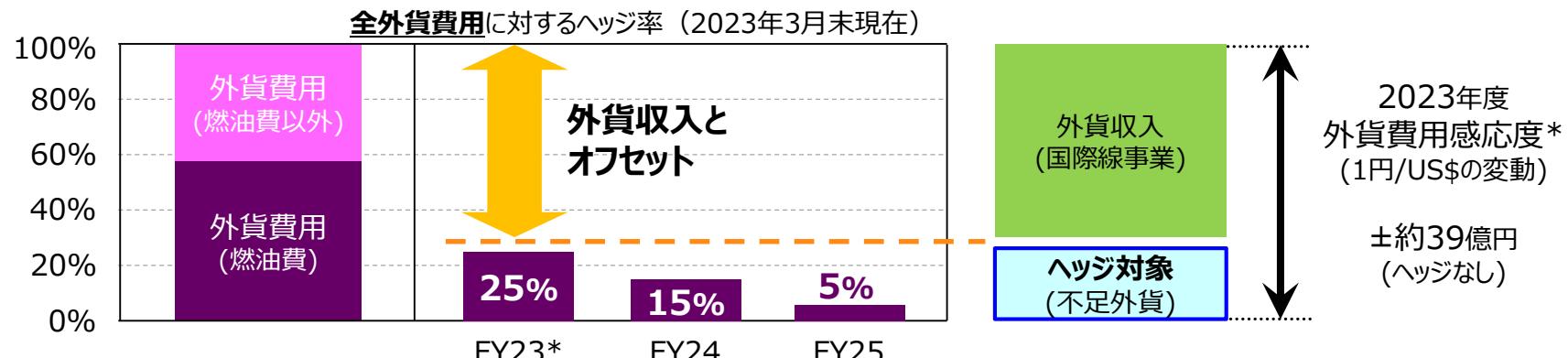
(US\$/bbl)	FY22実績	FY23前提
ドバイ原油	92.4	80
シンガポールケロシン	125.3	100



2. 為替ヘッジ 基本方針

- 1) 不足する外貨量を対象にヘッジ（3年前から取引開始）

(円/US\$)	FY22実績	FY23前提
ドル円レート	135.5	135



航空機数

	合計				退役済み機材* を除く			
	FY2021 期末	FY2022 期末	前年度 期末差	保有機数	リース機数	FY2021 期末	FY2022 期末	前年度 期末差
Airbus A380-800	3	3	-	3	-	3	3	-
Boeing 777-300/-300ER	20	18	△ 2	9	9	18	18	-
Boeing 777-200/-200ER	10	10	-	9	1	10	10	-
Boeing 777-F	2	2	-	2	-	2	2	-
Boeing 787-10	2	3	+ 1	2	1	2	3	+ 1
Boeing 787-9	39	40	+ 1	34	6	39	40	+ 1
Boeing 787-8	36	36	-	31	5	36	36	-
Boeing 767-300/-300ER	18	15	△ 3	15	-	18	15	△ 3
Boeing 767-300F/-300BCF	9	9	-	6	3	9	9	-
Airbus A321-200neo	22	22	-	-	22	22	22	-
Airbus A321-200	4	4	-	-	4	4	4	-
Airbus A320-200neo	11	11	-	11	-	11	11	-
Boeing 737-800	39	39	-	24	15	39	39	-
De Havilland Canada DASH 8-400	24	24	-	24	-	24	24	-
ANA 計	239	236	△ 3	170	66	237	236	△ 1
Airbus A321-200neoLR	1	3	+ 2	-	3	1	3	+ 2
Airbus A320-200neo	7	10	+ 3	-	10	7	10	+ 3
Airbus A320-200	29	27	△ 2	-	27	27	19	△ 8
Peach Aviation 計	37	40	+ 3	-	40	35	32	△ 3
グループ 計	276	276	-	170	106	272	268	△ 4

* 退役済み・売却待ちまたはリース返却待ちの機材

航空事業以外のセグメント

(億円)	航空関連事業			旅行事業		
	FY2021	FY2022	前年差	FY2021	FY2022	前年差
売上高	2,068	2,471	+ 403	462	738	+ 275
営業利益	△ 6	23	+ 29	△ 21	△ 2	+ 18
減価償却費	50	43	△ 6	1	1	+ 0
EBITDA (営業利益+減価償却費)	43	66	+ 22	△ 19	△ 0	+ 18
EBITDAマージン(%)	2.1	2.7	+ 0.6pt	-	-	-

	商社事業			その他		
	FY2021	FY2022	前年差	FY2021	FY2022	前年差
売上高	816	1,032	+ 215	381	380	△ 0
営業利益	5	35	+ 29	13	5	△ 7
減価償却費	10	9	△ 1	4	3	△ 1
EBITDA (営業利益+減価償却費)	16	44	+ 28	18	9	△ 8
EBITDAマージン(%)	2.0	4.3	+ 2.3pt	4.9	2.6	△ 2.4pt

3. 2023年度 業績予想（詳細）



連結業績予想

(億円)	FY2022	FY2023 (業績予想)	前年差
売上高	17,074	19,700	+ 2,625
営業費用	15,874	18,300	+ 2,425
営業利益	1,200	1,400	+ 199
営業利益率	7.0%	7.1%	+0.1pt
経常利益	1,118	1,150	+ 31
親会社株主に帰属する当期純利益	894	800	△ 94

市況	FY2022 実績	FY2023 前提
為替レート (円/US\$)	135.5	135
ドバイ原油 (US\$/bbl)	92.4	80
シンガポールケロシン (US\$/bbl)	125.3	100

セグメント別 計画

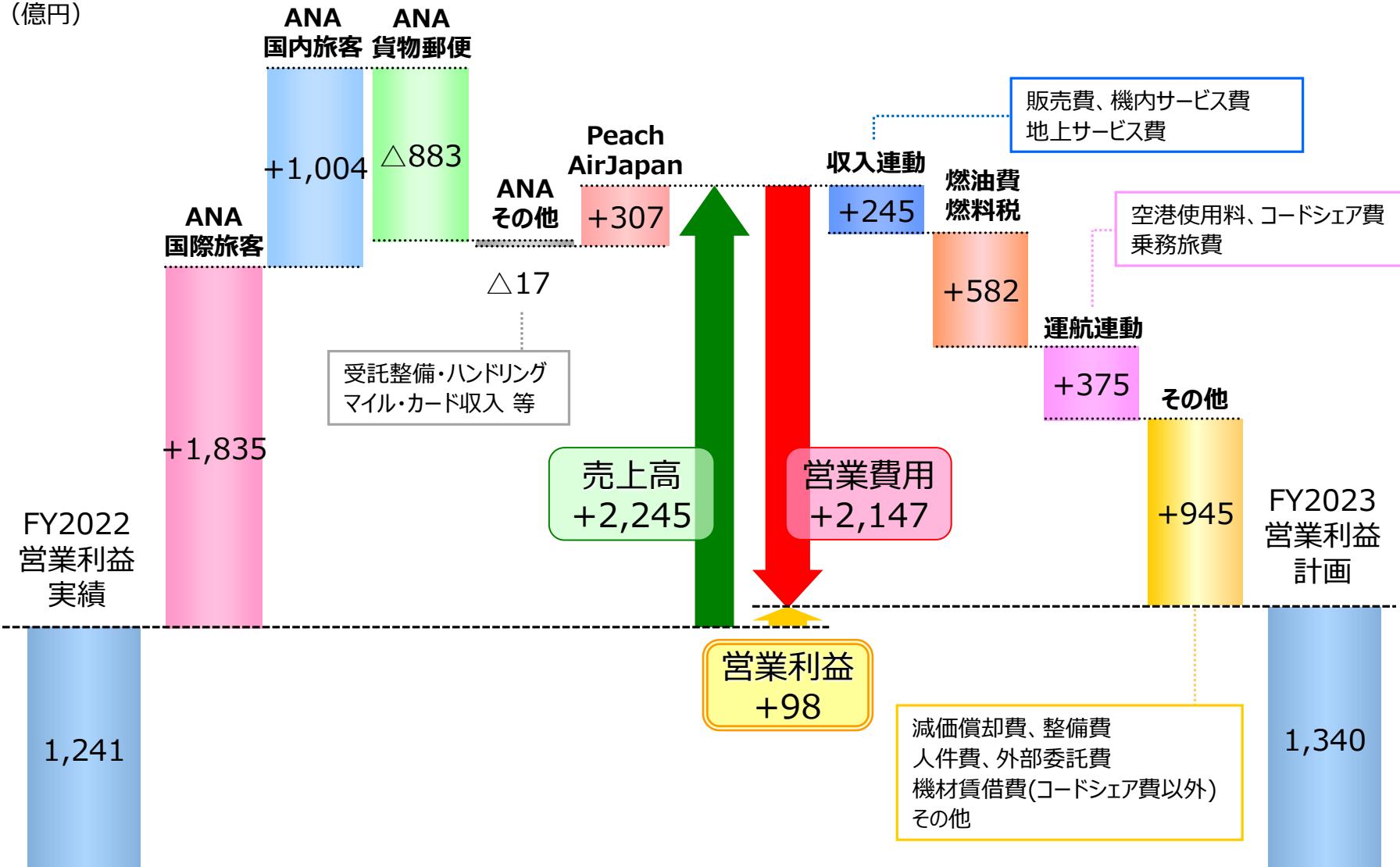
	(億円)	FY2022	FY2023 (計画)	前年差
売上高	航空事業	15,394	17,640	+ 2,245
	航空関連事業	2,471	2,860	+ 388
	旅行事業	738	1,060	+ 321
	商社事業	1,032	1,340	+ 307
	その他	380	400	+ 19
	調整額	△ 2,942	△ 3,600	△ 657
	合計 (連結)	17,074	19,700	+ 2,625
営業利益	航空事業	1,241	1,340	+ 98
	航空関連事業	23	85	+ 61
	旅行事業	△ 2	40	+ 42
	商社事業	35	40	+ 4
	その他	5	5	△ 0
	調整額	△ 102	△ 110	△ 7
	合計 (連結)	1,200	1,400	+ 199

航空事業 売上高・営業費用 計画

	(億円)	FY2022	FY2023 (計画)	前年差
売上高	国際旅客	4,334	6,170	+ 1,835
	国内旅客	5,295	6,300	+ 1,004
	貨物郵便	3,413	2,530	△ 883
	その他	1,447	1,430	△ 17
Peach・AirJapan		902	1,210	+ 307
	合計	15,394	17,640	+ 2,245
営業費用	燃油費・燃料税	3,477	4,060	+ 582
	燃油費・燃料税 以外	10,675	12,240	+ 1,564
	合計	14,152	16,300	+ 2,147
営業利益	営業利益	1,241	1,340	+ 98

航空事業 営業利益 増減要因 (2022年度→2023年度)

(億円)



航空事業 計画前提

計画前提 (ANA旅客事業)

	国際旅客			国内旅客		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
座席キロ (CY19比)*	+ 73.0 (△ 27.1)	+ 30.8 (△ 19.0)	+ 48.1 (△ 23.1)	+ 15.6 (△ 8.6)	+ 6.5 (△ 4.9)	+ 10.9 (△ 6.8)
旅客キロ (CY19比)*	+ 84.0 (△ 30.1)	+ 35.6 (△ 22.3)	+ 55.2 (△ 26.2)	+ 35.8 (△ 15.0)	+ 4.9 (△ 11.7)	+ 18.4 (△ 13.4)
旅客数 (CY19比)*	+ 103.1 (△ 38.3)	+ 50.5 (△ 27.0)	+ 71.2 (△ 32.7)	+ 36.8 (△ 15.1)	+ 6.4 (△ 11.9)	+ 19.8 (△ 13.5)
座席利用率(%)	77.5	76.9	77.2	69.2	68.6	68.9
ユニットレベニュー(円) (旅客収入/座席キロ)	12.1	11.2	11.6	11.5	11.3	11.4
イールド(円) (旅客収入/旅客キロ)	15.6	14.5	15.0	16.6	16.5	16.5
単価(円) (旅客収入/旅客数)	91,187	80,498	85,495	15,291	15,165	15,228

* コロナ前実績(2019年1月~12月実績)を新収益認識基準に置き換えた場合の数値と比較

航空事業 計画前提

計画前提 (ANA貨物事業)

		国際貨物			国内貨物		
		上期	下期	通期	上期	下期	通期
有効貨物トンキロ	前年比 (CY19比)*	+ 1.3 (△ 6.2)	+ 6.8 (△ 5.3)	+ 4.0 (△ 5.7)	+ 25.7 (△ 6.9)	+ 11.8 (△ 1.3)	+ 18.3 (△ 4.2)
有償貨物トンキロ	前年比 (CY19比)*	△ 8.2 (△ 2.9)	+ 24.0 (+ 14.4)	+ 6.9 (+ 5.8)	+ 11.3 (△ 19.6)	+ 30.7 (△ 6.1)	+ 21.2 (△ 12.7)
貨物輸送重量	前年比 (CY19比)*	△ 6.3 (△ 8.1)	+ 20.8 (+ 5.0)	+ 6.5 (△ 1.5)	+ 17.9 (△ 22.1)	+ 33.2 (△ 9.1)	+ 25.8 (△ 15.5)
重量利用率(%)		59.9	69.0	64.5	18.5	22.3	20.4
ユニットレベニュー(円) (貨物収入/有効貨物トンキロ)		28.7	35.0	31.9	15.4	17.1	16.3
イールド(円) (貨物収入/有償貨物トンキロ)		47.9	50.7	49.4	83.4	76.9	79.9
単価(円) (貨物収入/貨物輸送重量)		243	266	255	89	82	85

* コロナ前実績(2019年1月~12月実績)との比較

航空事業 計画前提

計画前提 (LCC事業)

(CY19実績はPeach・バニラエア合計)

Peach

	上期	下期	通期
座席キロ (CY19比)*	+ 11.5 (+ 14.8)	+ 18.7 (+ 28.5)	+ 15.1 (+ 21.6)
旅客キロ (CY19比)*	+ 36.8 (+ 13.1)	+ 30.4 (+ 28.8)	+ 33.4 (+ 20.8)
旅客数 (CY19比)*	+ 26.1 (+ 16.3)	+ 17.9 (+ 25.8)	+ 21.8 (+ 20.9)
座席利用率(%)	85.6	84.7	85.2
ユニットレベニュー(円) (売上高/座席キロ)	8.8	8.3	8.5
イールド(円) (売上高/旅客キロ)	10.2	9.8	10.0
単価(円) (売上高/旅客数)	12,665	12,616	12,640

* コロナ前実績(2019年1月~12月実績)との比較

(Memo)



(Memo)



(Memo)



(Memo)



グループ経営理念

安心と信頼を基礎に、世界をつなぐ心の翼で夢にあふれる未来に貢献します

グループ安全理念

安全は経営の基盤であり社会への責務である
私たちはお互いの理解と信頼のもと確かなしくみで安全を高めていきます
私たちは一人ひとりの責任ある誠実な行動により安全を追求します

グループ経営ビジョン

ワクワクで満たされる世界を

私たちは、空からはじまる多様なつながりを創り、
社員・お客様・社会の可能性を広げていきます。

グループ行動指針
(ANA's Way)

私たちは「あんしん、あつたか、あかるく元気！」に、次のように行動します。

1. 安全 (Safety)
安全こそ経営の基盤、守り続けます。
2. お客様視点 (Customer Orientation)
常にお客様の視点に立って、最高の価値を生み出します。
3. 社会への責任 (Social Responsibility)
誠実かつ公正に、より良い社会に貢献します。
4. チームスピリット (Team Spirit)
多様性を活かし、真摯に議論し一致して行動します。
5. 努力と挑戦 (Endeavor)
グローバルな視野を持って、ひたむきに努力し枠を超えて挑戦します。

免責事項

当資料には、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関する見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

弊社グループの主要事業である航空事業には、空港使用料、航空機燃料税等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、価格、経済環境の動向、外国為替レートの変動、感染症の継続・拡大、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

当資料はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.ana.co.jp/group/investors>

株主・投資家情報 → I R 資料室 → 決算説明会資料

ANAホールディングス(株) グループ経理・財務室 財務企画・I R部
Eメール : ir@anahd.co.jp